

自分は、事故を起こすはずがない？ 事故に遭うはずがない？

車は走る凶器！ 運転に集中を！
進路の安全確認を徹底し、悲惨な交通事故死ゼロ

◆スリップ事故 注意！◆
峠・橋の上・日陰・トンネルの出入り口
交差点手前、滑って交差点内で衝突 / 注意しましょう

バックで気付かず

「荷台に荷物を積んでいて後ろが見えにくかった」

86歳夫の軽トラにひかれ妻死亡

◇バック時は、一度の確認だけでなく、もう一度確認しましょう◇

(2016/11/22 18:44)

21日午後2時、新潟県の住宅の敷地で、86歳の夫が軽トラックの位置を動かそうとバックしたところ、後ろで庭の手入れをしていた妻をはねました。妻は病院に運ばれましたが、死亡しました。86歳の夫は「荷台に荷物を積んでいて後ろが見えにくく、腰を曲げて作業していた妻の姿に気付かなかった」と話しています。

気のゆるみ スピード出し過ぎていませんか？

2時間ごとに、15分休憩で 守ろう！ 自分の命 他人の命

バックは・・・『カメが歩くスピードの気持ちで！』

信号の変わり目の・・・「見切り発車」、「後追行動」は危険です

夕方、夜間、早朝 注意しましょう！ 歩行者が見えにくい 道路が滑りやすい

- 積み下ろし作業中の、荷台からの墜落・転落に注意しましょう
- 鋼材、資材の積み下ろし作業中の、手・指・足のはさまれ事故に注意しましょう
- ハウス、トイレの積み下ろし作業時の、脚立・屋根からの転落に注意しましょう
- 敷き鉄板の積み下ろし作業時、ユニック作業に注意しましょう

夜間 『右』からの横断歩行者に注意

ライトは右側が、比較的暗くなる構造

ハイビームだったら助かった可能性のあるケースが86%

横断時は左からの車に注意 夜間死亡事故の77%

2016/11/23(水) 7:55

歩行者が道路を横断している際に起きる死亡事故は、特に夜間は左方向から来る車にはねられるケースが多いとする分析を22日、愛媛県警が発表した。日の入りから日の出までの夜間の事故で亡くなったのが66人。このうち左から来る車にはねられた人は51人で約77%を占めていた。右から来た車にはねられたのは15人だった。

車のドライバーからみると、右から左へ道路を渡る歩行者をはねるケースが多いということになる。原因として、県警は車のライトは右側が比較的暗くなる構造になっていることなどを挙げている。

さらに、横断歩行中の事故に関して車のライト点灯状況では下向きが95%、上向き(ハイビーム)が2%、消灯が3%となっており、車がハイビームだったら助かった可能性のあるケースが86%あったと分析した。

左からの車は遠く見える？ 衝突、右の2倍超

○夜間、遠目(ハイビーム)の活用

○自動ブレーキなどの先端技術を過信しない

2016/11/23(水) 8:01

警察庁は、交通ルールやマナーをまとめた「交通の方法に関する教則」を改正した。歩行者には道路横断の際に左から来る車に特に注意するよう呼びかける。運転者には前照灯の上向き点灯(ハイビーム)の積極的な使用を求め、自動ブレーキなどの先端技術を過信しないことなどの注意事項を盛り込んだ。

警察庁が昨年1年間の横断中の歩行者の死亡事故を分析したところ、直進車との間で起きた718件では、左から来た車と衝突した例が右からの車との例の2.27倍に上り、65歳以上の高齢者や夜間ではその傾向がさらに強まった。道路を渡りきる直前の事故が多いとみられる。また、夜間に郊外で車やバイクとの間で起きた164件のうち、前照灯が下向き点灯(ロービーム)だった例が157件(95.7%)を占めた。

午後5時 交差点付近を歩いていた女性はねられ死亡

信号と横断歩道はなかった

2016年11月23日(水)

22日午後5時20分ごろ、愛媛県の県道交差点で軽ワゴン車が、自営業手伝いの女性(72)と衝突した。女性は頭などを打ち、搬送先の市内の病院で死亡した。警察は自動車運転処罰法違反(過失傷害)の疑いで、軽ワゴン車の空調設備業の男性(81)を現行犯逮捕、同法違反(過失致死)容疑に切り替え調べる。軽ワゴン車が直進中、信号機と横断歩道のない交差点付近を歩いていた女性と衝突した。